

かわさき 図書館だより



図書館ホームページ: <http://www.library.city.kawasaki.jp/>

10月26日(月)～11月8日(日)は「かわさき読書週間」です!

秋の恒例となった「かわさき読書週間」も7年目を迎えました。今年も読書週間を中心に、読書に関するイベントが盛りだくさんです。楽しい本との出会いをさがしに、ぜひ足をお運びください。



昨年の「なかはら子どもとしゃかん本の森」の様子

*** 2009「かわさき読書週間」イベント情報 ***

川崎図書館 大師・田島分館	川崎・大師・田島合同企画 「おはなしキャラバン」 11月7日(土)・8日(日) 手遊び・パネルシアター・絵本の読み聞かせなど
幸図書館	10月27日(火) 大人向けおはなし会 10月28日(水) 子ども向けおはなし会 10月30日(金)～11月3日(火) 「図書館コレクション展」(幸文化センターギャラリーにて)
日吉分館	11月 8日(日) 子どものための秋のおはなし会 ーストーリーテリングー
中原図書館	10月31日(土)～11月3日(祝) なかはら子どもとしゃかん本の森 (旧中原市民館ギャラリーにて) おはなし会・ぬり絵工作コーナー・リサイクル本の配布コーナー・本の展示ほか
高津図書館	10月25日(日) 秋のおたのしみ会 親子で科学の玉手箱 ー浮力を楽しもうー 10月31日(土)～11月8日(日) 高津区の読書活動紹介展示 10月18日(日) 郷土史講演会 「高津を知ろう」
宮前図書館	10月23日(金)～10月28日(水) 「みやまえ読書の日」 (宮前市民館ギャラリーにて) おはなし会他各種イベント・子どもの本の展示など
多摩図書館	10月24日(土)～10月31日(土) 図書館で活動しているグループや学校図書館の活動紹介 10月17日(土) まんげきょうのおはなし会 - 公開講座「図書館と作家の世界」(全5回) 10月1日(木)・15日(木)・29日(木)・11月12日(木)・26日(木) 10月29日(木)・11月5日(木) 読書ボランティアすみれ30周年行事 「読みきかせのためのボイストレーニング講座」 11月8日(日) パパの絵本よみきかせおはなし会
麻生図書館	11月 3日(祝) 「ハンナのかばん」石岡史子さんによる講演会 11月 6日(金) 大人のためのおはなし会 11月10日(火) 大人の図書館探検ツアー 11月15日(日) 福祉まつりに参加 イベント開催・本のリサイクルなど



※各イベントの日時・詳細は変更になる場合があります。
詳しくは各館へのお問い合わせ、もしくは図書館ホームページでご確認ください。

(9月15日現在)

「読書のまち・かわさき」図書館講演会のお知らせ

小林孝雄先生講演会 「川崎の昭和史(仮題)」

大正13年に誕生した川崎市は、工業を中心とした産業の発展とともに国内でも有数の都市に成長しました。しかし85年目を迎えた川崎の歴史の中には、戦争で市街地が焼け野原になるなど多くの出来事がありました。わがまち川崎のプロフィールは、まさに日本の昭和史を映し出しています。

日 時：平成21年12月2日(水) 午後2時～4時

会 場：高津市民館 大会議室

申込み：11月4日(水)より、各市立図書館・分館カウンターにて整理券を配布いたします。

問合せ：中原図書館(電話 044-722-4932)

※11月4日より、お電話での申込みも受け付けいたします。

【講師紹介】小林 孝雄(こばやし たかお)

旧制県立川崎中学校・新制県立川崎高等学校を経て、昭和30年早稲田大学第一文学部史学科を卒業。教員として市内の中学校・高校を歴任。退職後、桐光学園の設立に携わり同学園高等学校の教頭を務める。退職後も近現代史を中心に地域史の研究に活躍している。

第12回



このコーナーでは、川崎をもっとよく知り、もっと楽しむための本を紹介していきます。

第12回目は、昭和の川崎を感じられる本を集めました。懐かしい出来事、当時を思い出させる写真、「そうだったのか」と驚かされる内容など、最も身近な歴史「昭和」が語りかけてきます。

～懐かしさ・再発見～「昭和の川崎」

『戦争と私の昭和史』－自分史から－

小林孝雄／著【出版文化社】

川崎の学校に通っていた少年とその級友たちの体験が、昭和16年からの数年間を中心に綴られています。歴史研究家の著者による自分史は、観察力と記憶力から当時の出来事をリアルに描いています。健康で将来のある少年たちが直面した戦争の体験。自分史の形態で書かれていますが、事実を克明に伝える一冊です。



『みんなのデザイン』－グッドデザインと私たちの生活。－

川崎市市民ミュージアム／編集【川崎市市民ミュージアム】

電気釜・扇風機・ラジオ・文具など生活の一部だった懐かし製品も、改めて見ると機能的な美しさに気付かされます。この冊子は1957年にスタートしたグッドデザイン賞の創設50周年にあわせて開催された展示のカタログですが、戦後の時代の流れにあわせて各作品が解説されています。「かわさき産業デザインコンペ」の2005年グランプリ作品で、2006年にグッドデザイン賞を受賞した「フットピローゆ〜ら」も登場しています！



『20世紀のかわさき』－100年を振り返り、新世紀をひらく－

川崎市市民局広報課／企画・編集【川崎市】

川崎の20世紀を振り返るならこの一冊！川崎市の歩み、人びとの暮らしぶりが多くの写真とともにまとめられています。山田太一さんによる巻頭エッセイ、皆川博子さんの短編小説など川崎ゆかりの著名人による書き下ろしもあり、見て読んで楽しめます。



まちと図書館をつなぐ「自動車文庫」

～川崎の自動車文庫「たちばな号」の歩み～

自動車文庫「たちばな号」は、市内の各地域と図書館を結ぶ移動図書館として昭和52年に運行を開始しました。車に本を積んで巡回しているため蔵書の数などに限りがありますが、各ポイントで親しまれ頼りにされている身近な図書館です。

～「たちばな号」での風景～

自動車文庫には小さいお子さんやお母さん、年配の方の利用が多く見られます。特にお子さんと一緒に来られるお母さんたちには、2週間に1度の情報交換の場にもなっているようで本を選んだ後で立ち話をする姿や、近くでお子さんたち同士が楽しげに遊ぶ様子をよく見かけます。図書館の館内では「少し静かにしていただけますか？」など声かけをしなければならない場合もあるので、自動車文庫ならではの風景に心がなごむことがあります。

(「たちばな号」の担当者より)



現役の3代目「たちばな」号です。

近々新車の4代目にボタンタッチされる予定です。

＊＊市内20箇所を2週間に1回ごとに巡回しています＊＊

各ポイントの運行スケジュールがわかる「たちばな号日程表」を作成しています。各図書館カウンターにおたずねください。＊図書館ホームページからも各ポイントの地図・日程表がご覧いただけます！

http://www.library.kawasaki.jp/riyou_mooving/movingmap.html



フロンターレ選手が選ぶ「わたしの1冊」

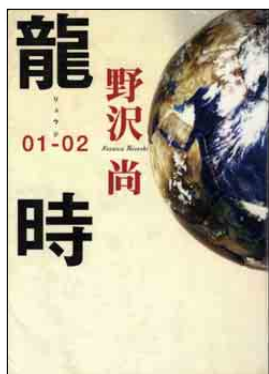


今回からスタートする新コーナーは、わが川崎のクラブチーム「川崎フロンターレ」と図書館との合同企画です。第1回目は読書好きが多いフロンターレ選手の中でも、読書通として知られている中村憲剛選手とおきの1冊を紹介します。

りゅうじ
『龍時』(シリーズ全3冊) 野沢尚／著 【文藝春秋】

作者の急逝により未完になっているが、本格的サッカー小説として高い評価を得ている作品。

《あらすじ》 U-16の代表候補に選ばれた志野リュウジは、U-17スペイン代表との親善試合で世界との壁に衝撃を受ける。しかしその試合がきっかけでリュウジはスペインリーグのユースから誘いを受ける。



＊＊＊中村憲剛選手より＊＊＊

この小説にはサッカー選手として共感できる部分が詰まっているし、サッカー小説という時点で気持ちが高揚します。試合の臨場感はもちろん、主人公の心理や人間関係などが細かく描かれて、ついのめりこみました。



【MF14 中村憲剛選手】

変幻自在のパスを駆使して、フロンターレの攻撃を司るゲームキャプテン。日本代表としても来年のワールドカップのキーマンとして注目をあびています。チームの中でも読書家として知られ、遠征には必ず文庫本など数冊をバックにしにしているそうです。

かわさき歴史めぐり (19)

徳川氏の関東入国と川崎市域－19－

法政大学名誉教授
村上 直

多摩川は、関東において利根川、荒川、那珂川に次ぐ長い川でありながら、流域面積は狭いのが特色です。それは中流から下流にかけて大きな広がりがないからです。しかし川を挟んで両岸は景観がよいので、江戸からの文人墨客がしばしば訪れています。名高い「近江八景」になぞらえて、二子・溝口・登戸周辺に「武陽玉川八景」を定めております。その版画の背景の山々には、日光山・御嶽山・三峰山・秩父山・高尾山・身延山・富士山・大山。平地には深大寺・小金井桜・府中明神（大国魂神社）などが描かれています。他にも綱下げ松〔下げ綱松〕（宿河原。津田山の山腹）の松寿弁財天を中心に「宿河原綱下げ松八景」。そして、枳形山からの展望で「玉川向八景」や「十二景」なども絵図に描かれています。このように、多摩川の流域は絶好の行楽の地であったといえましょう。

多摩川を渡る場合、渡し舟が利用されました。しかし水量の少ない時期には、一時、橋をかけることもあります。幕府は中世以来の交通の要地には、特定の河川の架橋を禁止し、公用の人、旅人や物資の輸送者などには定められた渡し場から舟などによって渡河させたのです。

多摩川の渡し場は、かつては45か所に及んだといわれます。このうち川崎市域については20か所に限定してまとめた「報告書」があります。（『川崎

市域での多摩川の渡し場跡』NPO法人多摩川エコミュージアム2006年）。その調査によって、登戸の渡し（登戸道・津久井道）二子の渡し（矢倉沢往還・大山街道）丸子の渡し（中原往還）、そして六郷の渡し（東海道）をはじめ、市域の渡し場の歴史的推移が記してあります。

街道・脇往還などのほかにも、両岸の村と村を結ぶ渡し場もあり、作場渡し（耕作地）のためや、飛地との交流に大きな役割を果たしています。

川崎市域の渡し場は、先の四ヶ所の渡し場を除くと、上菅の渡し（矢野口の渡し）、菅の渡し、下菅の渡し、中野島の渡し、堰の渡し、宇奈根の渡し、諏訪の渡し、北見方の渡し、下野毛の渡し（野毛の渡し）、宮内の渡し、平間の渡し、矢口の渡し、小向の渡し、六郷渡し下の作場渡し、〔中瀬の渡し、大師の渡し〕、羽田の渡し（文左衛門の渡し）になっています。いずれも地名で、その位置は分かりますが、上菅の渡しは、江戸への道であり、平間の渡しは、江戸へ野菜を運ぶための池上道、小向の渡しは『天正日記』によりますと、徳川家康が天正18年8月の江戸入府における道筋であったとする記事もあります。羽田の渡しは、作場渡しとして開けられましたが、のちに川崎大師への参詣の道として利用されました。

「読書のまち・かわさき」とは？

家庭・地域・学校が一体となった子どもの読書活動の推進を目指し、平成12年に「読書のまち・かわさき」事業がスタートしました。

学校図書館の活性化を中心に、図書ボランティアの研修・広報紙の発行・読書に関するイベントの開催など活動の輪が広がっています。特に11月の第1日曜日を「かわさき読書の日」として、市内の読書活動優秀団体表彰や作家による講演会などの催しを行っています。また、その前後2週間を「かわさき読書週間」として各市立図書館でも読書に関するイベントを多く開催しています。一緒に読書で心豊かなまちづくりに参加しませんか。



読書のまちかわさき

編集・発行 川崎市立中原図書館 〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-417 TEL044-722-4932

川崎市立図書館：

川崎図書館(200-7011)	高津図書館(822-2413)	麻生図書館(951-1305)	大師分館(266-3550)	橋分館(788-1531)
幸図書館(541-3915)	宮前図書館(888-3918)		田島分館(333-9120)	柿生分館(986-6470)
中原図書館(722-4932)	多摩図書館(935-3400)		日吉分館(587-1491)	菅間覧所(946-3271)